

令和2年度第1回利用者懇談会開催結果概要

- 1 日 時 令和2年12月1日(火) 10:00～11:30
- 2 会 場 埼玉県男女共同参画推進センター (With You さいたま)
- 3 出席委員 松岡委員、石川委員、石崎委員、井上委員、杉山委員、
高村委員、新堀委員
事務局 諸角所長、菅原副所長、飯塚副所長、薄井事業コーディネータ
上木事業・相談担当部長、金子管理担当課長
- 4 あいさつ 諸角埼玉県男女共同参画推進センター所長
- 5 議 事
(1) 令和2年度事業概要について 資料に基づき諸角所長が説明
(2) 意見交換

【質疑・意見】

委員：

情報ライブラリーで発行するブックマークは年3回発行だが、今年度の4月と7月は発行中止であった。情報ライブラリーは新型コロナウイルスの関係で閉じていた期間があったので、センターとしては積極的に発行しなかったと思われる。しかし、おうち時間も増えたこともあり、ブックマークはなるべく休まないで発行してほしい。

また、これまでブックマークは紙とホームページの両方で発行してきた。今回はペーパーレスということで紙では発行しなくなるとのことだが、どのように情報を伝えていくのか。

事務局：

情報発信について、紙は手で取れるというところが非常に良いが、広めていくところでホームページの情報発信を使っていくのが良いと考えている。

委員：

フェイスブックは新しい情報を発信していかなければならないが、県の場合フェイスブックの掲載は、多くの部署を通すのか。

事務局：

フェイスブックの設置は広報関係の部署を通して開設するが、開設後はセンターで情報を掲載していく。

委員：

セミナー室を借りた時にWi-Fiを使うのは難しいのか。

事務局：

セミナー室がWi-Fi設置になっていないので、Wi-Fiを持ち込んで利用することはできる。

委員：

DV相談など具体的に相談する組織やネットワークはあるのか。

事務局：

私どもには電話相談があり、相談の中で相談窓口等の連絡先をお伝えした

りしている。

また、DV相談などの連絡先をまとめた相談窓口ガイドを毎年発行しており、ホームページでも公開している。例えば、これを参考に電話で相談していただければと思う。

委員：

経済的に困難な状況にある女性のチャレンジ支援について、講座の10月末現在の参加者数は、昨年と比べて増えているのか。講座への参加者の動向はどのような感じなのか。

また、相談で経済的な相談はあるのか。

事務局：

参加者の動向はあまり変化ない。

また、相談は、家にずっといることや人間関係の難しさの関連の相談が増えている。私どもの相談は入口が幅広いので、いろいろな相談がある。

委員：

4月、5月頃に緊急事態宣言が出たが、面接相談、グループ相談はどのように行ったのか。

事務局：

面接相談は主にDV関係であり、専門相談を含めて顔合わせで行った。十分な距離をとり、消毒したものを使用するなど本人に説明した上で行った。グループ相談は年に2回実施しているが、緊急事態宣言解除後に実施している。

委員：

センターで大学の学生実習は縮小するのか。

事務局：

例えばセンターを利用していただき、県政出前講座という形でプログラムを実施していただくことで今後対応していきたい。実習は一区切りと思って進めさせていただく。

委員：

大学のゼミの学生を引率してセンターや女性キャリアセンターを見学し、センター職員に県の男女共同参画の現状、センターの役割などを若い人向けに簡単なレクチャーをするプログラムを組んで行うことはできるのか。

事務局：

センターを知ってもらいながら男女共同参画について考えていただくことは非常にありがたいことである。事業担当と相談しながらやっていただければと思う。

委員：

フェイスブックを開設されたが、今後フェイスブック以外のSNSを利用する計画はあるのか。

また、人材育成について、今回女性リーダーの講座に参加された方が29名いるが、講座を何で知って、これをどう届けてみようと思ったのか。参加者は40代、50代が多いのか。

事務局：

フェイスブック以外のSNSについては、今後ツイッターを利用したいと考えている。

また、女性リーダーの講座の参加については、チラシを作り、募集する時に各市町村、市町村の施設、団体に多く広報し、手を挙げていただいている。今回は20代から60代まで幅広い方に参加いただいている。リーダーの方は熱意があり、1期目の方の中には、女性の支援団体を作って活動している方や審議会に参加している方などがある。熱意がある方が多いので、触発されて活動することにつながっている。

委員：

女性リーダーの講座は、チラシとホームページのどちらを見て申し込みをされた方が多いのか。

事務局：

チラシとホームページをそれぞれ見て申し込みされている方がおり、それぞれ効果がある。

委員：

女性リーダーの講座の参加者は、どの地域からの方が多いのか。

事務局：

県内いろいろなところからお越しいただいている。

委員：

情報ライブラリーの図書は県内の図書館を通して相互貸借で借りれるのか。

事務局：

県内の他の図書館を通じて相互貸借で借りることが可能である。

委員：

生き方セミナー、ママカフェの講座のプログラムは埼玉県独自なのか。プログラムの回によって人数が違うのか。

事務局：

埼玉県独自である。回によって人数のばらつきがあるのは否めないが、全部受講していただくとすごく分かるプログラムを考えている。

委員：

離婚問題について県が講座等を実施しているのは良い。市だけではできないのではないかと感じる。

委員：

県はZOOMを使うことに関して、どのように考えているのか

事務局：

課題として今後考えていかなければならない。今回、性暴力に関する講座をさいたま市と共催で行ったが、さいたま市がユーチューブチャンネル持っていたためユーチューブで行った。

委員：

ZOOMについて、扱えなかったり、Wi-Fiもない方がいる。若い方はZOOMが良いという声もあり、難しい問題である。今後、新型コロナウイルスが無くなってもオンラインの講座はなくならないと思う。今後男女共

同参画推進センターのあり方も変わっていくのではないかと。

委員：

ZOOMの講座はリアル講座が減っている分喜んでもらえる。自宅にいな
がらZOOMで見れてよかったという声もある。行政がZOOMを取り入れ
るのはハードルが高いということは分かる。NPOなどの団体を通じて事業
を実施してみてもと思う。

委員：

ZOOMなどオンラインにより遠隔で行う研修、講座は、今後無くなって
いかないのではないかと。長期的にみていくと必要な感じがする。

委員：

リモートは便利だが、交流や市民同士が対面で出会って、つながっていく
ことを考えると、今回フェスティバルが2日間に短縮されたが、感染防止に
気を付け、対面で人が集まれる場所は残しておいたほうがよい。事情で参加
できない方にはリモートで参加できるというチョイスが増えるのはよいが、
全部をリモートしてしまうと物足りなさを感じる。

男女共同参画を地域から進めていく時には、市民がフェイストゥーフェイス
でつながっていける場所、可能性は残すべきではないかと。

フェスティバルや交流の場の参加者にも感染リスクを理解してもらい、セ
ンターとして感染予防は徹底すると示した上で、対面でつながっていく可能
性は無くさないでほしい。

事務局：

フェスティバルについては、今回いろいろと考えさせていただいた。期間
は短いですが、セミナー室で発表をしながらお客様にも来ていただき、ただし半
数ということで進めている。今までのようにとはならないが、今回やること
により来年度以降につながっていく。

また、交流というのはすごく贅沢なことであると感じた。

一方、リモートという選択肢も出てきたということは、今後新型コロナウイルス
が無くなった時に、リモートの利点を考えながら組み立てるといった点
においても幅が広がるのではないかと考えている。